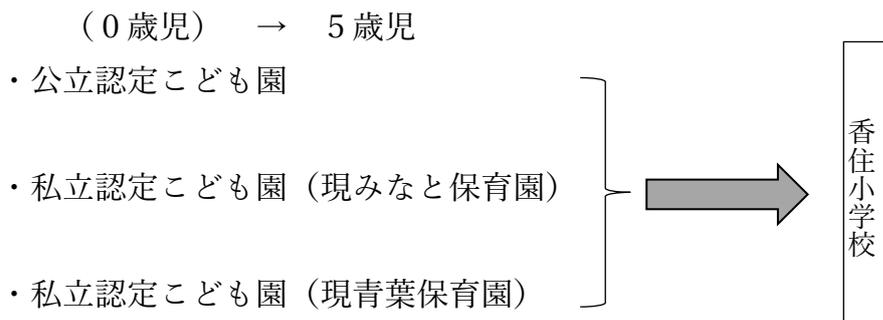


## 香住区就学前施設再編の方向性（配置・時期）に関する事務局案

### 1. 就学前施設再編の配置について

#### ①配置

公立1 + 私立2 の3つの認定こども園を配置する。



#### ②提案理由等

##### (1)現行体制の継続について

「現在の就学前の体制のままでよい。」という意見があったが、急激な少子化が進行するなか、小学校等の再編を受け、就学前の施設についても、提供する教育・保育の質や施設の維持管理等も含め、子どもの数に応じた施設のあり方へ再編していく必要があると考える。

「香住区における就学前施設のあり方に関するアンケート調査（以下「アンケート調査」という。）」においても、著しい少子化を受け、「再編すべきである」「どちらかと言えば再編すべきである」という再編を求める声が82%であった。

##### (2)私立保育園の認定こども園化について

香美町香住区就学前施設再編検討委員会（以下「検討委員会」という。）において、私立みなと保育園及び私立青葉保育園の両園の認定こども園化の意志が明確に伝えられた。町としては、国・県が認定こども園化を推進するなか、保育園を運営する社会福祉法人の持続可能な経営的な面にも配慮が必要で、私立保育園の認定こども園化を支援する立場にある。

##### (3)香住幼稚園の継続の可否について

第2回検討委員会における委員の意見では、香住幼稚園を残し5歳児に一律の教育を受けさせることを求める声が少なからず見受けられた。急激に少子化が進み将来的

な年間出生数が30人程度となることが見込まれる香住区において、5歳児まで利用可能な「認定こども園」と5歳児が利用可能な「幼稚園」を混在させることは、少子化を踏まえた就学前施設の再編を検討するにあたり適切でないと考える。

#### (4)私立と公立の施設配置について

私立保育園の認定こども園化の意向を受け、将来的な少子化を踏まえると、私立認定こども園2園体制も一つの案として考え得るが、検討委員会における委員の意向やアンケート調査の結果から、各施設の運営方針・保育内容等の特徴を踏まえ、公立と私立の選択肢があることを望む声が多く見受けられた。こうした保護者の要求に応えるため、公立の就学前施設の設置が欠かせないとする。

私立保育園の認定こども園化を受け、香住幼稚園については先述のとおり「幼稚園」として継続しないとする考えを示した。また、柴山保育所については、香住区に「幼稚園」を設置しないこととなれば、柴山保育所で4歳児までの保育を提供した後、5歳児の教育・保育はどこで受けるのかと混乱を招くこととなる。公立の幼稚園と保育所に代わり5歳児までの教育・保育を提供可能な公立の認定こども園の設置が必要となる。

アンケート調査では、回答者の90%が「認定こども園を知っている」と回答しており、さらにその80%が「認定こども園を利用したい」という回答であった。理由としては、「0歳から5歳まで同じ施設で預かってもらえることが、子どもへの精神的負担が少なく、保護者としても安心である。」「幼稚園時の用品購入が経済的負担となる。」「長期休業中の保育が受けられる。」といった声が挙がっていた。

また、アンケート調査における香住区の将来の就学前施設のあり方については、「公立・私立の3つの認定こども園を設置する。」という意見が44%と最も多かった。

#### (5)再編の方向性について

これらを踏まえ総合的に判断し、町としては香住区において、長年続いてきた就学前施設の教育・保育の体制を一新し、国・県が進める認定こども園制度を活用し、公立1園、私立2園の3つの認定こども園を設置することとし、社会情勢や教育・保育のニーズの変化に対応した就学前の教育・保育環境の充実を図っていくこととする。

### ③公立・私立就学前施設における教育・保育の一律の質の確保

#### (1)【香美町版】就学前の教育・保育のスタンダードカリキュラムの策定

町内の公立及び私立の就学前施設の教育・保育の指針となるカリキュラムを策定する。

(2)公立・私立就学前施設職員の合同研修の実施

スタンダードカリキュラムに適合した教育・保育が提供されるよう、公立・私立の共同研修を開催する。

(3)指導主事（就学前教育・保育経験者）による訪問指導

私立認定こども園も含め、指導主事の定期訪問によるスタンダードカリキュラムに基づく、教育・保育の実践指導を行う。

## 2. 就学前施設再編の時期について

(1)時期

令和10年4月（令和10年度）に3園同時に運営開始する。

(2)提案理由等

各認定こども園の認可や施設整備に要する手続き等を踏まえ、早くとも令和10年度の運営開始を見込む。